



いわて・みやぎ・ふくしま 便り

No. 7

2018年
12月28日発行

日本生協連
組合員活動部

早いもので、2018年も年の瀬となりました。皆さまどのような一年でしたでしょうか。今号では、各生協での訪問活動やイベントなど、もりだくさんの活動をご紹介します。ぜひご覧ください。

2018年もお世話になりました。2019年もどうぞよろしく願いいたします。



いわて生協被災地支援活動助成金 贈呈式を行いました。

いわて生協では、岩手県内で復興支援活動に取り組む団体へ、2016年度より「被災地支援活動助成金」を実施しています。時間の経過とともに、支援活動団体では資金不足から、活動縮小や撤退せざるを得ないところも増えています。助成を行うことにより、被災者のくらしやコミュニティ作りなどに貢献してほしいと取り組みをはじめ、今回で3回目となります。全国の生協のみなさまにご協力いただいている「くらし・地域復興応援募金」といわて生協組合員の「震災復興支援募金」を財源としています。毎年10団体、1団体30万円を上限に助成を行っており、今回は10月に募集を行い、13団体から助成申請がありました。審査委員会を経て、12月19日に釜石市で助成金贈呈式が行われ、11団体へ総額302万4,200円を助成しました。

贈呈式では、「昨年のこの場で知り合った方と、その後の活動につながり、感謝している」などの声もありました。



今回の助成団体



ひつつみ隊 広島県へ！

2018年7月の西日本豪雨で被害に遭った方がお住まいの、広島県坂町と呉市の仮設住宅でひつつみのお振る舞いをしました。生協ひろしまさんは、毎年岩手県内の仮設住宅などに「お好み焼き隊」を派遣くださり、その恩返しもしたい、仮設住宅で不便な暮らしを送っている方々にあたたまっていただきたいと「ひつつみ隊」5名が向かいました。坂町平成ヶ浜仮設住宅でのお昼の部は40



(ひつつみとは、岩手や青森の南部に伝わる具だくさんの汁で、小麦粉の生地を引っ張ってちぎることから「ひつつみ」と呼ばれています。ツルツとなめらかで喉ごしが良い「すいとん」のようなものです)。

名程いらっしゃいました。ひつつみを食べるのが初めての方ばかりで、「案内チラシを見たけど、どんなものかわからなくて楽しみに来ました。おいしく、温まってよかった」と話されていました。また、同じ仮設住宅でも久しぶりに顔を合わせて方もいるようで、いろいろとお話に花が咲いていました。



台風10号支援活動 ～岩泉町仮設住宅で昼食会～

2016年の台風10号で大きな被害をもたらした岩泉町。東日本大震災でも仮設住宅が建設されましたが、台風被害でも仮設住宅が建設されました。今年は岩泉町社協と共催で、12月21日に



町内4ヶ所の仮設住宅と1ヶ所の災害公営住宅で昼食会を開催しました。いわて生協からは、組合員理事中心に20名が参加し、すき焼きとクリスマスケーキで昼食をご一緒しました。参加者からは「久しぶりにみんなで食事ができて楽しかった」などの声が寄せられました。

また、この日はいわて生協の組合員が編んだ毛糸のひざ掛けも参加者にプレゼントしました。岩泉町の仮設住宅は来春には解消される見込みです。

今年からは台風10号の支援活動にも「暮らし・地域復興応援募金」を活用させていただいています。



豪雨災害のあった広島で、仙台いも煮をふるまいました。



呼びかけのポスター

東日本大震災後の2012年から4年間、「広島お好み焼き隊」などで生協ひろしまのみなさんに宮城を支援いただきました。その恩返しの思いを混め、理事と職員計8人が11月24日に、広島県坂町の仮設住



坂町の仮設住宅



災害ボランティアセンターの方から被災地の当時の様子と現状も教えていただきました。

約 210 人の方が立ち寄られ、いっしょに食べながら、今のくらしの様子なども伺い交流しました。広島県民医連のみなさんによる健康チェックも同時開催され、多くの方が血圧測定などをされていました。

参加された方からは「今日は寒かったが、食べたら温かくなれた」「具たくさんでおいしかった」などの声をいただきました。

宅集会所で、生協ひろしまと広島県生協連のみなさんにご協力いただきながら、仙台も煮のふるまいを行いました。

午前と午後の2回、大なべで作った仙台も煮に



コープこうべ・手作り団体・みやぎ生協交流会を開催しました。

12月5日にコープこうべのみなさんが来訪され、「とうほくてしごとカタログFUCCO」掲載の手作り団体と、支援団体 NPO 法人応援のしっぽ、みやぎ生協の理事とで交流会を開催しました。

はじめにコープこうべと手作り団体のみなさんの取り組み紹介のほか、販売ターゲットを絞りこんで取り組まれた障がい者施設の商品開発の事例を学びました。午後には、作り手・売り手・買い手それぞれの立場での悩みの解決策をいっしょに考えたり、生協や地域とつながって手作り商品が広がるためにやってみたいことなどを語り合いました。



グループ交流では活発な意見交換ができました。

参加者からは「手作りされる方の思いが直接聞けて、より広めていきたいと強く思った」などの声が寄せられ、有意義な交流となりました。



名取市の仮設住宅で、ふれあい喫茶お茶会を開催しました。

名取市・美田園仮設住宅では、12月中にほぼ全員の方が公営住宅などへ引っ越される予定です。12月4日（火）が最後のふれあい喫茶となるため、お別れ会を開催しました。当日は、毎年いらしていただいている共立社鶴岡生協環境委員会のみなさんも来訪され、いっしょに昼食を作って交流したほか、これまでのふれあい喫茶を、写真を見ながら振り返りました。

「これまでの支援に感謝の気持ちでいっぱい。新しい生活へ向かう良い思い出になりました」との声が寄せられました。

みやぎ生協で取り組むふれあい喫茶の、仮設住宅での開催はこれですべて終了しました。



秋を満喫…岐阜と長野の味を満喫しました！

11月16日に、コープぎふより4名の方々が葛尾村営恵下越団地を訪問され、茶話会に参加され



おやき作りに奮闘中！

た方々と、岐阜の本場の五平餅を作り食べながら、交流しました。普段は「食事制限しているから」と言う方々も、本場の味には勝てず…美味しい美味しいと、準備した3升分の五平餅をペロリと全て食べていただきました。食べながら、懐かしい音楽を聞きながらゆったりした時間を過ごすことが出来ました。

11月27日には、コープながのよりおやき隊員（役職員3名）の方々が、福島市北沢又第1団地の茶話会に参加され、信州おやき作りを団地内の参加者と一緒に作り食べました。おやきを蒸す時間を活用し「おやきクイズ」を行いました。おやきの中には、餡や野沢菜の他に福島のいか人参を入れる等工夫され、食べた方からは「これもありかも…」と長野と福島の味のコラボを堪能してもらいました。



福島県で行われている県民健康調査の中の甲状腺検査についてのシンポジウム開催

11/28 (水) 10:30~ウェディングアンドパーティエンポリウム (福島市) にて

コープふくしま組合員や県内外の生協役職員が参加して、全体で79名、そのうち28名がコープふくしま以外からの参加でした。

この度のシンポジウムは、コープふくしまが5月から8月の間、県内12会場で開催してきた甲状腺検査についての学習会の内容を振り返り、学習会参加者アンケートから見えること、学習することの意義についてなどの報告と、参加者同士の交流が行われました。

福島県立医科大学 放射線健康管理学講座 緑川早苗先生を講師に「甲状腺検査を受けるかどうかを決めるためのものさし作り」をテーマに基調講演から始まりました。

講演の前半は学習会の内容の振り返りで、甲状腺検査や、世界と日本の甲状腺がんに関するデ



ータについて、紹介されました。福島と全国のデータを比較しても放射線との関連は分からず、甲状腺がんのスクリーニング(がん検診)は、実は診断される必要のないかもしれない無害のがんが見つかることもあり、全世界的には通常、推奨されていないということも紹介されました。

講演の前後半の間にはグループ交流が行われ、

「甲状腺検査について初めて知った」というコメントが複数ありました。また、九州の生協の方は「地理的に距離があるので情報がなかなか入らない」、福島県内の方は「県内でも情報や意識の差があり、隣の家の方とも話しづらい話題」など、お話されていました。

講演の後半は、これまで実施された学習会のアンケート結果の報告となりました。学習会前は検査のデメリットを知らない方が約8割であり、メリットが多いと考えている方が大半でしたが、学習会後はデメリットもあることを知り、検査を受診するかどうかについて検査の意義や目的を十分に理解し、検査を受けることも、受けないことも尊重すること、自分のものさしをもって検査を受けるかどうかを決めることが促されました。



シンポジウム後は、生協の役職員と緑川先生との交流を行い、一人ひとりが感想を述べたり、緑川先生に質問をしました。他県から参加の複数の生協より「福島県に対する差別・偏見がないように学習を広めていきたい」と発言がありました。コープふくしまからは、組合員に震災・原発事故後の不安や心配事を気軽に話せる場を提供していきたいと、しめくられました。今回の企画を通じて、「福島出身の方が福島出身であることに自信が持てるように、ぜひ正しい知識を身につけてほしい」という緑川先生のメッセージと、学習することの重要性を再確認して、閉会となりました。



子ども保養プロジェクトのご報告

12月1-2日（土・日）保養先：あたご天狗の森スカイロッジ（茨城県笠間市）

7家族 子供 12名、大人 10名参加



パルシステム茨城・栃木では、毎年空気の澄む冬の初めに福島の子どもたちを招待して、星空観測や陶芸教室などの体験企画を行っています。2013年にスタートした一泊二日の

この企画は、今年で6年目を迎えました。食事の準備、体験企画などに理事さんはじめ、さまざまな団体の協力を頂いています。



スカイロッジで歓迎会

1. 笠間焼陶芸教室と星空観測

福島⇒郡山⇒笠間市（大津晃陶芸教室）⇒笠間芸術の森公園⇒あたご天狗の森スカイロッジ

●大津晃陶芸教室（茨城県笠間市）

陶芸教室開始前、お昼に笠間市名物のお稲荷さんのお弁当をご馳走になりました。陶芸教室のスタッフの方のご指導の下、親子それぞれに器・コップ・お皿等の作品を作りました。

●公園で外遊び（笠間芸術の森公園）

長いローラー滑り台が好評で何度も滑る親子がいました。親御さんが見守る中、1時間ほど自然の中で思い切り体を動かしました。

●あたご天狗の森スカイロッジ

宿泊は家族ごとに自炊式のロッジです。各お部屋には、ウエルカムティーセット（パルシステム商品）を用意していただきました。そして歓迎会。歌や楽器の演奏があり、最初は恥ずかしがっていた子どもたちも、少し仲良しになれました。その後、星座などの予備学習を行ってから1時間近く外で星空を観察しました。パルシステム茨城・栃木の理事の皆さんが作ってくださった紅茶や麦茶を飲み、いただいたホッカイロで体が温まりましたが、なにより気持ちがホッとしました。観察の後は、各お部屋でしゃぶしゃぶの夕食をおいしくいただきました。地元のJAさんから、常陸牛・ローズポーク・野菜を提供していただきました。

2. 日の出観察とサッカー教室を体験

あたご天狗の森スカイロッジ⇒北山公園グラウンド⇒ポケットファームどきどき⇒郡山⇒福島

●早起きして日の出観察

6時15分に集合して、日の出を見るということでしたが、残念ながら段々と曇ってきてしまい見る事が出来ませんでした。その後、理事の皆さんがパルシステムの商品で作ってくださった朝食をいただきました。



ホーリー君 コヨットの旗とともに

●サッカー教室・外遊び

J2 水戸ホーリーホックのコーチ 3 人にサッカー教室を行って頂きました。子どもだけでなく大人も一緒に参加し、体を使ったゲームや、家族ごとにサッカーボールを使って身体を沢山動かしました。

サッカーの後、ホーリー君が登場し記念撮影をしました。皆さん大満足でした。

●ポケットファームどきどき

お昼には、常陸牛・ローズポークのバーベキューを頂きました。最後に、パルシステム茨城・栃木より、参加者にオリジナルのパルシステム商品のお土産を頂戴しました。

＜スタッフからの感想＞福島から往復の引率をしました。さまざまな体験企画、そしてパルシステム茨城・栃木のみなさんたちの心遣い、こんなに素晴らしい企画のスタッフとして参加でき、ありがたかったです。



コヨット！ほっこりママ会（心のケア）実施報告

11月30日（金）福島市福島グリーンパレスにて

参加者7名、スタッフ4名、講師2名 合計13名参加

コヨット！では福島で暮らす母親のために、心のケアについて学習し、話し合い、子育ての悩みや経験を交流する場を提供しています。日本プレーセラピー協会の2名の講師の方々が参加をしてアドバイスをを行っています。2018年は、今回で5回目の開催となりました。

この日はまず、ストレッチ体操を行って、体を温めました。



その後、脳をフル回転させるワークを学びました。

＜ライフ・マップを作成＞

一人一人、これまでの人生の中で、自分にとって重要だった出来事を4つ選び、絵とことばで書き出しました。人生の分岐点となった場面を書いた人が多く、その時の気持ちや気づいたことをグループに分かれて交流しました。母親だけに子どもが生まれたことを書いた人がほとんどでした。あらためて子どもへの向き合い方を考えるきっかけとなったようです。最後に、

これからの生き方で思うことを絵に描いて発表しあいました。

＜参加者からの感想＞

- ・ワークを通じて自分を見直すことができた。
- ・自分の転機が思い出された。
- ・いつもママ会で心のケアができて安心する。

発行

日本生協連 組織推進本部 組合員活動部
電話 03-5778-8124 Fax 03-5778-8125

担当

末永、上田